

十勝地域 新規就農者紹介

FARM NABE 渡辺耕平さん 千鶴さん



経営の概要

就農地域：北海道 足寄町

就農方法：新規参入

営農開始：令和2年1月

営農形態：酪農

(5月～11月は昼夜放牧、
12月～4月は牛舎内飼育)

➤ 飼養頭数：64頭 (うち経産牛48頭)

➤ 経営耕地面積：47.7ha
(うち放牧専用23.3ha)

➤ 農業従事者：経営主、妻の2名
(取材日：令和6年6月11日)

✓ FARM NABE 渡辺耕平さん、千鶴さんのこと

経営主の渡辺 耕平さんは埼玉県出身。大学卒業後に就職した動物医薬品会社で営業を担当。夢だった酪農業を第2の人生に選び、就農準備のため35歳で退社しました。妻 千鶴さんは鹿児島県出身。就農を目指すまで、牛のような大型動物との接点は、ありませんでした。

耕平さんは、放牧酪農への関心が高かったこと、前職で営業していた足寄町で農業研修していたこともあり、放牧酪農で新規就農実績が多数ある足寄町を就農先として選択。4年間の就農準備期間を経て、令和2年に営農を開始しました。

御家族全員が地域に溶け込み、参入した集落の活性化にも寄与しています。

✓ 就農のきっかけや農業研修のこと

もともと動物が好きだった耕平さん。前職で酪農家を相手に営業するなか「自分も放牧酪農をやりたい。」との想いが高まります。お子さんにも恵まれていたことから今後の子育てを含め千鶴さんと就農について相談を重ね、脱サラを決意。農業研修先の酪農家から「放牧酪農」や「つなぎ飼育」の技術指導等を受ける傍ら、(公財)北海道農業公社が実施する新規就農者向けの補助事業を活用し、乳用牛の導入や牛舎整備を進めました。

✓ 酪農や放牧へのおもい

耕平さんは「自然環境が厳しい足寄でも放牧酪農はできる。牛がいれば、牛乳が生産でき、肉にもなる。放牧酪農は、循環型農業なのが自然で良いと思っている。将来は、放牧した牛の乳でチーズ作りにも挑戦したいので、牛群改良にも取り組んでいる。土地が広いので、自給自足にも興味がある。子ども達と一緒にここでの暮らしを楽しみたい。」と語りました。千鶴さんも「牧場の仕事を知るために一日だけの酪農体験をした時、周りから『向いているよ!』と驚くくらい持ち上げられたんです。」と笑顔を見せました。

放牧環境を整えつつ草地改良にも取り組んでおり、令和5年には一部草地で有機JAS認証を取得しました。

✓ 新規就農を目指すみなさんへ 渡辺さんからエール

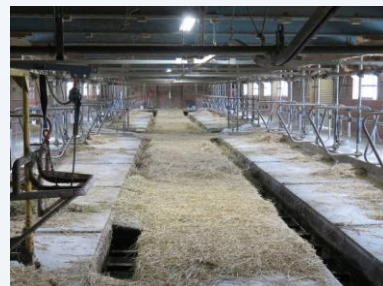
酪農情勢は厳しいけれど、日本の現状からすれば酪農は必要な産業。新規参入するには大きな投資が必要ですが、離農もあり、参入するチャンスはあります。農業研修でつらいこともあります。自分がやりたいことをしっかりと見据え、準備を進めれば、理想の牧場を見つけられると思います。

✓ 地域の応援団から一言

渡辺君は、集落の農家から信頼を得ているし、住民からも地域の一員として受け入れられています。就農したばかりの頃、牛舎周りの環境整備をするのに集落の農家が作業機を用意し、自然と協力しあっていた姿が印象深い。牧草収穫を請負組織に委託していますが、放牧経営では珍しい営農判断で、その柔軟さにも感心しています。(JAあしよ職員)



補助事業を活用して改修した牛舎



つなぎ牛舎はニューヨーク
タイストール形式(48床)



耕平さん自ら整備した牧道
(放牧場内を移動する牛が歩く道)



放牧中の搾乳牛